



ベルリン日本語補習授業校

Japanische Ergänzungsschule Berlin e.V.

所在地

Japanische Ergänzungsschule in Berlin e.V.
c/o Halensee-Grundschule
Joachim-Friedrich-Str. 35/36
10711 Berlin

事務局

日本式1階 13号室
Tel./Fax 030-891 1787
(水) (金) 16:00~18:45
(木) 15:30~18:15
jimusho@berlin-hoshuko.de
www.berlin-hoshuko.de

補習校事務局への案内

当校が借用しているハーレンゼー小学校正面入口（Joachim-Friedrichstr. 35/36）を入り、学校中庭に出て、建物に沿って右へ行くと、角にガラス扉がありますので、こちらから校舎に入ってください。階段を数段上がり、左の廊下に入って 一つ目の部屋が、補習校の事務局です。

交通機関

地下鉄 U-7 Adenauerplatz 駅より、徒歩 10 分

又はバス M19・M29 番で 2 つ目の停留所

(Kurfürstendamm/Joachim-Friedrich-Str.) 下車、徒歩 3 分

S-Bahn Halensee 駅より徒歩 7 分

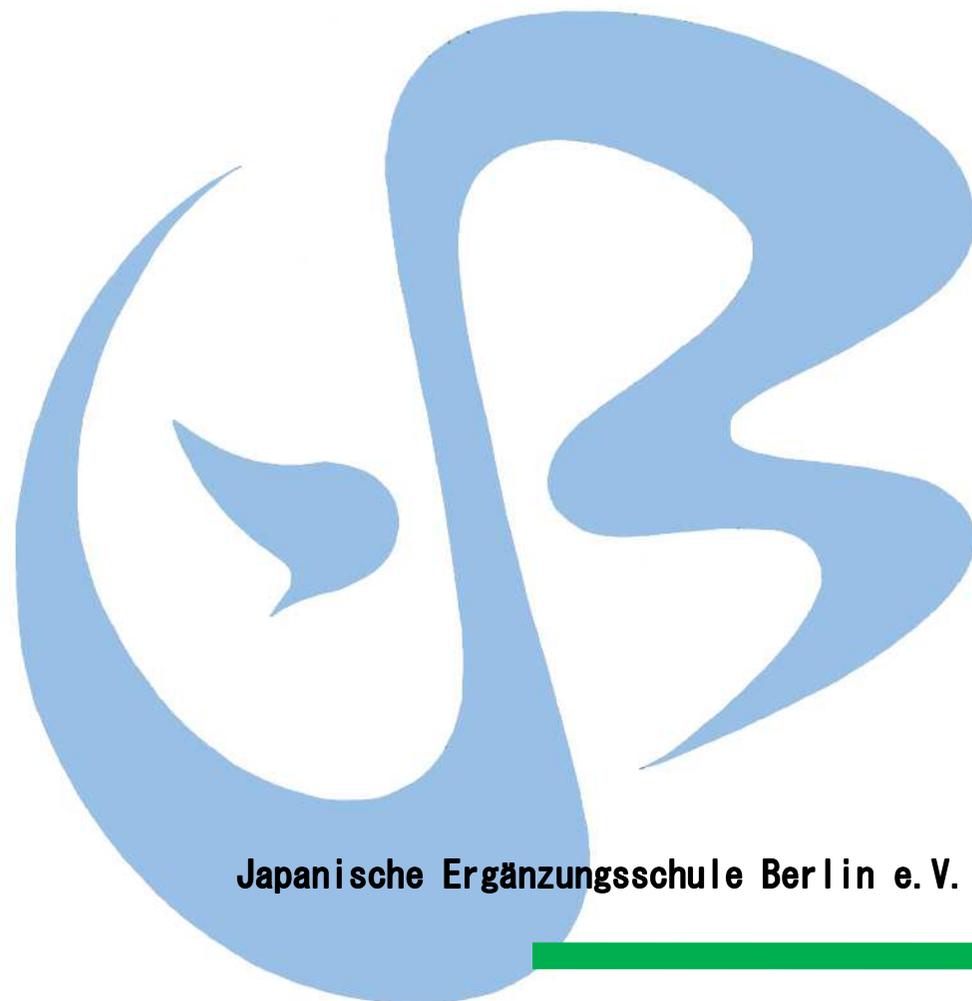
又は上記のバスで 1 つ目の停留所下車、徒歩 3 分

S-Bahn Charlottenburg 駅より徒歩 15 分



ベルリン日本語補習授業校

www.berlin-hoshuko.de



Japanische Ergänzungsschule Berlin e.V.

「ベルリン日本語補習授業校」は、1973年に在留邦人有志によって当時

の西ベルリンに設立されました。

以後、日本国政府の支援と在ベルリン日本企業の援助、また、また子どもたちによりよい日本語教育の場を与えたいと願う保護者の協力のもと、経験豊かな優れた教師陣が国語・日本語および算数・数学の補習授業を行ってきています。本校はその43年の歩みのうちに、「日独の架け橋」となりながら、国際人の育成に全力を尽くし、2016年現在、在籍数170名を越える規模まで成長し、すでに多数の優秀な卒業生たちが巣立っています。ドイツでの滞在が数年間限定の駐在員家庭、あるいは長期滞在家庭、および国際家庭の子女といった多彩な子どもたちが、日本語を媒体として、よき仲間として励ましあい、広く世界へそれぞれの道を力強く歩んでいることは、大きな誇りです。多様な文化と国際性を備えたこの首都ベルリンにおいて、本校のさらなる発展を期しております。

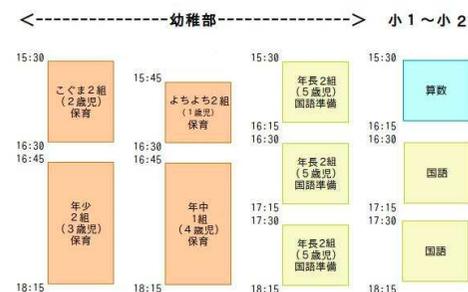


授業時間

算数、数学の授業は、クラスによっては3時間目に行っています。幼稚部は人数によってクラスが増設されます。入学は随時可能です。見学も受け付けておりますので、事務局にお問い合わせください。



木曜クラス



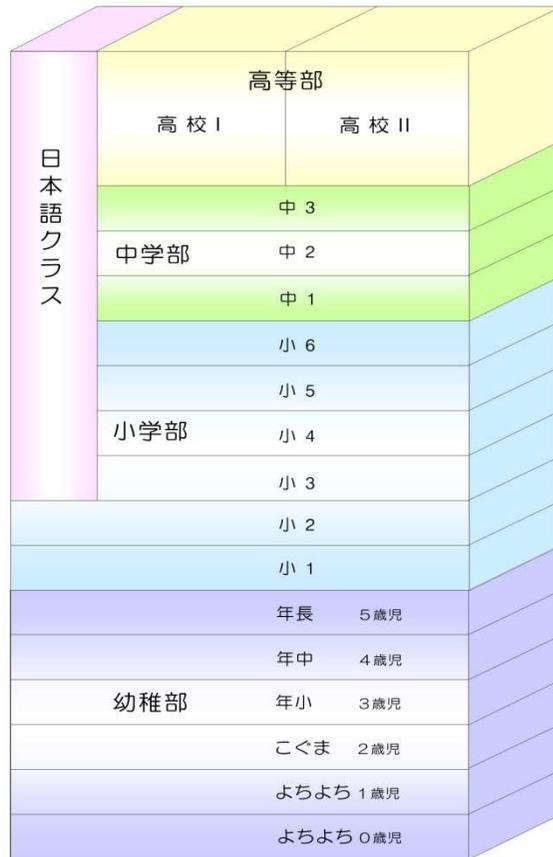
本校は Japanese Ergänzungs-schule in Berlin e.V. という公益法人の形をとって運営されています。お子さんが本校に入学された場合、同時に保護者の方は「公益法人の正会員」になっていただきます。なお、よちよちの場合は、「公益法人の準会員」となることもできます。授業料は、会費という形でお支払いいただきます。

入会金：一世帯あたり 正会員 50ユーロ 準会員 25ユーロ

(但し準会員が正会員へ変更となる時に残り25ユーロをお支払いください)

会費：月額

よちよち (0・1歳児)	15ユーロ	こぐま (2歳児)	27ユーロ
ぱんだ (年少)	38ユーロ	こあら (年中)	38ユーロ
らいおん (年長) から高等部			
第1子	68ユーロ	第2子	63ユーロ



本校では0歳児から高校生まで一貫した教育理念の下、文部科学省の学習指導要領に沿った日本の教育水準に応じた日本語の補習をするとともに、それぞれの子供に合った日本語教育をすることを目標としています。そのために、カリキュラムの作成・実施の面で工夫し、一人ひとりの個性や能力を生かし、より効率的な授業を行うよう努めています。また、授業以外に、学校行事・課外活動・地域との交流などの特別活動や日本人国際学校との合同行事や交流授業も定期的に行っています。また、年長から高校クラスの子どもたちの1年間の学習の成果として学校文集を作成しています。

幼稚部

よちよち（0・1歳児）

親子で参加しながら、家族以外の人たちに少しずつ慣れていきます。歌や手遊びなどを通して、日本語をより身近に感じ、いろいろな人が話す日本語に触れることで、少しずつ日本語の世界が広がっていきます。

こぐま（2歳児）

簡単なあいさつや返事ができるようになる時期です。歌や読み聞かせ、まねっこ遊びなどで、先生との言葉のやり取りを楽しみます。身近なものの名前や動きをあらわす言葉を覚えたいことやしてほしいことを伝えるようになります。

年少（3歳児）

語彙がぐんと増える時期です。歌やお話の読み聞かせでは、言葉を増やすと同時に、内容を楽しむことができるようになります。また、大人とのやり取りだった遊びが、友達とのやり取りに代わっていきます。自分の思い、見たこと、したことを少しずつ話せるようになります。手先も器用になる時期ですので、簡単な工作を楽しむこともできます。

年中（4歳児）

読み聞かせなどによってイメージを広げながら言葉を豊かにし、思いや経験を言葉で伝える楽しさを味わいます。しりとりや、かるたなどの言葉遊びを通じて語彙を増やししながら文字にも親しんでいきます。また、自分で工夫することができるようになるため、ごっこ遊びや劇、工作などの幅が広がります。鉛筆を持っていろいろな線を描く遊びを通して、「書く」ことへの関心もより高まります。

年長（5歳児）

幼稚部過程の最終段階として、学習に取り組む姿勢が身につく時期です。人の話を注意して聞いたり、相手にわかるように説明することができるようになります。文字・言葉遊びや、劇、工作など、表現活動がより活発になります。ひらがなを覚えて書く学習が始まり、自分の経験などを短い文で書けるようになります。幼稚部での文字学習の積み重ねを経て、1年生での学習への期待と興味・関心を大きく膨らませ、小学部以降の学習へとつながっていきます。

小学部

文部科学省の学習指導要領に沿った年間指導計画をもとに、文科省指定の教科書で副教材を使いながら、各学年とも「国語」「算数」を授業科目としています。日本語に触れる機会の少ない国際家庭の児童に対しては、日本語の基礎が身につくことを重点に、一つ一つの言葉を大切にしながら指導しています。学年ごとにクラスが設けてあるので、児童の実態に合わせて丁寧に授業を進めていくことができます。国語では、作文指導にも力を入れ、毎年さまざまなコンクールで入賞しています。また、漢字検定試験も奨励しています。算数では、基礎基本を大切に、日本ならではの位取りや筆算、かけ算九九、そろばん、算数用語なども学ぶ機会としています。現地校やインターナショナルスクールでの算数学習の助けにもなっています。

中学部

文部科学省の学習指導要領に沿った年間指導計画をもとに、文科省指定の教科書で副教材を使いながら、各学年とも「国語」「数学」を授業科目として学習しています。海外で暮らす子供たちの柔軟な思考に合わせ、国際的な感覚を身に着けた子供たちがお互いに意見を述べ合い、様々な角度から各単元に取り組めるよう工夫し、授業を行っています。学年ごとにクラスが設けてあり、必要に応じ帰国受験指導も行っています。

高等部

高校Ⅰ：クラスの実態、各生徒の能力に応じて、現代国語、作文、読解などの指導を行います。高校教科書『国語総合(三省堂)』を教材の一つとし、幅広く日本語能力を高めることを目標としています。個人の能力に応じ日本語能力試験の準備もしています。

高校Ⅱ進学準備クラス：主に日本の大学へ進学、留学を希望する生徒を対象に、日本の高校レベルの国語を学習しています。現代文、古文、漢文、小論文を授業科目とし、ディベートなども授業に取り入れています。教科書は『国語総合(三省堂)』『現代文(三省堂)』を使用しています。個人の希望に応じ進路相談もしています。

日本語クラス

外国語としての日本語を学習します。日常の日本語会話、漢字の読み書き、簡単な本を読む能力の習得を目指します。日本語能力試験のための勉強もします。